

## 11月「クローバー」だよりⅡ（「不登校対策セミナー」のレポート）



- \* 11月に開催した「不登校対策セミナー」の要旨を、7回に分けてレポートします。
- \* 「心理学」の視点から不登校を分析し、実際の事例を通して適切な対応について考えます。  
少しむずかしい内容があるかも知れませんが、**続けて読んでいただくと、・・・**  
「安定した「愛着関係」は、不登校の改善に絶対に必要なもの」ということを理解していただけたらと思います。

第1回レポートの**テーマ**は、・・・

不登校の改善に絶対に必要なものは、「愛情」ではなく、「**愛着**」！

### ◆毎朝、聞こえてくる、このような言葉かけ・・・

不登校の子どもさんとのやりとりの中で、例えば、朝、・・・

「7時よ、いつまで寝ているの！」  
「今日は、学校に行くの？行かないの？」  
「学校に行かないと、勉強がおくれるわよ！受験はどうするの！」



・・・といった言葉かけをしているという、お話をよく伺います。

果たして、このようなやりとりを日常的にくり返して、不登校は改善していくのでしょうか？

**親の怒りや不満を伝えても、不安をあおっても、不登校は改善しません。**

むしろ、このようなネガティブ（否定的）な言葉かけは、言えば言うほど、悪循環です。

でも、思わず言ってしまう。

つまり、親は、・・・

**子どものよくない所を指摘して、それが良くなるようにさせようとするんです。**

**これが、不登校の多くのケースの実態です！**

### ◆目に見える形（行動）から、変えようとしなさいこと！！

では、「いったい、どうしたらいいの・・・？」ということになりますが、・・・

最も基本的なことで、はっきりと言えることは、  
そのように、**目に見える形（行動）から変えようとしなさいこと**です。

これをやると、ほぼ失敗します。



不登校の改善を図るためには、・・・

まず、この後お話しする「**不登校の本質的な要因**」を理解し、その要因を踏まえた機転ある（賢い）対応をしていくことが不可欠です。

※「不登校の本質的な要因」については、2回目以降のレポートにて・・・



ここで言う「**不登校の本質的な要因**」というのは、**心の問題**です。  
心の問題は、**目に見えません**。

ですから、皆さんが、**目に見えるものに働きかけている限り、・・・**

**その働きかけは、不登校の改善にはつながっていない・・・**と、考えていいと思います。

はじめの方でお話をした、朝の言葉かけを例にすると、・・・

寝ている、起きているは、目に見えます。

学校に行く、行かないも、目に見えます。

勉強がおくれる、おくれもないも、テストや成績を見れば、すぐに分かります。

これでは、子どもに、変化は生まれません。

#### ◆では、その「目に見えない」心の問題とは、いったい何でしょう？

その手がかりになるものが、

例えば、以下のような、子どものさりげない一言の中にあります。

もし、子どもさんから、・・・

「お母さん（お父さん）、雨が降ってきたね。」

・・・と言われたら、あなたは、どのように受け応えをされますか？



このような一言にも、この後お話しする**ポイント**をおさえ、**ていねい**に対応していくと、・・・  
不登校は改善に向かって動き始めます。

この受け答えについては、セミナーの最後の方で、ふり返ってみることにします。

#### ◆不登校の改善に不可欠（絶対に必要）なものとは、・・・何？

ここから、本論に入ります。

不登校の改善に不可欠（絶対に必要）なものとは、・・・何でしょう。  
それは、**安定した親子の「愛着関係」**です。

**安定した親子の「愛着関係」は、・・・**  
**子どもの心の安定を図ります。不登校の改善を図ります。**  
**それだけでなく、・・・**

子どもの心を健全に成長、発達させます。  
自己肯定感を育み、自信を高めます。  
人、あるいは、集団や社会と健全に関わるようにします。  
さらに、子どもに生きる力や希望を与え、子どもを幸せにします。



そして、親にも、家族にも、多くの幸せと恵みを、もたらしてくれます。

◆ **「愛情」と「愛着」は、本質的に異なる。不登校の改善に必要なのは、「愛着」です！**

ここまで、読んできて、・・・

「なーんだ、じゃあ、親子のいい関係を築けば、不登校は改善していくのか!？」

・・・と思われる方があるかも知れません。

しかし、「**愛着関係**」とは、・・・そういう意味ではありません。  
そういう、短絡的なものでは、ありません。  
「**愛情**」とも、意味がちがいます。



日本では、この「愛着」という言葉が、**まちがった意味で**一人歩きしています。  
**「愛着」の本質を正しく理解しないで対応するから、子どもに変化が生まれにくいのです。**

「**愛着関係**」とは、**正しくは、・・・**

「**鳥類や、人を含むほ乳類、特に、高等霊長類に見られる関係で、・・・**  
**特定の養育者（親）との、密接な関係を、求める個体の傾性**」のことを言います。

右上のカモの親子の写真を見ていただくと、「愛着」のイメージがわいてくるかも知れませんね。

心配されなくても大丈夫です。この後、具体例をあげながら、分かりやすくお話しします。

\* 第1回は、ここまでとします。次回は、・・・

不登校の改善に不可欠な「**愛着関係**」の**メカニズム**について（**最重要**）お伝えしていきます。  
「安定した親子の「愛着関係」が築かれると、なぜ、不登校が改善に向かうのか？」について、「心理学」の視点から、お話しします。

**文責** 西村明倫（「クローバー」代表）

公益社団法人日本心理学会認定心理士、メンタル心理カウンセラー  
一般社団法人日本 TFT 協会診断レベルセラピスト

## 参考文献・資料

- 「母と子のアタッチメント 心の安全基地」 J・ボウルヴィ 著 二木武 監訳 歯科薬出版 1993.5.1
- 「愛着障害 子ども時代をひきずる人」 岡田尊司 光文社書院 2011.9.20
- 「支援のための臨床的アタッチメント理論」 工藤晋平 誠信書房 2020.3.20
- 「アタッチメントの実践と応用」 数井みゆき 誠信書房 2012.8.1
- 「シック・マザー」 岡田尊司 筑摩書房 2011.6.15
- 「思春期とアタッチメント」 林もも子 みすず書房 2010.2.19
- 「アタッチメント障害とその治療」 ブリッシュ 著 数井みゆき 遠藤利彦 北川恵 監訳 誠信書房 2008.5.30
- 「心理臨床と表現療法」 山中康裕 金剛出版 1999.11.30
- 「学校に求められる教育にプラス効果を与える学校要因・家庭要因に関する実証的研究」 西村明倫 2017.3.1  
（「平成 27 年度鳥取市教育論文」優秀賞論文）
- 「甘えとアタッチメント 理論と臨床」 小林隆児 遠藤利彦 逸見書房 2012.11.20